



No.026

能登北部地域医療研究所

のとけんだより



金沢医科大学
能登北部地域医療研究所



2016. 7. 5

—医学教育の第一歩を地域医療と福祉体験実習からスタート—

早期福祉体験実習で奥能登の離島診療所医療・在宅医療・老健介護を体験！

(実習期間: 2016.5.10-13)

金沢医科大学医学部第1学年で実施される体験実習の目的は、福祉施設などでの実体験を通して、社会における医療と福祉・介護の接点についての理解を深め、将来師となるために必要な学習の動機付けにすることである。入学からほぼひと月後の5月中旬、新入生全員が学外施設での6日間の実習に臨みました。

1) 一般目標(GIO)

社会における医療と福祉・介護の接点について、早期に実地体験をすることにより理解を深め、将来医師となるために必要な学習の動機付けを行う。

2) 行動目標(SBO)

- (1) 入所者、患者さんとコミュニケーションをとることができる。
- (2) 食事介助を行うことができる。
- (3) 入浴介助を行うことができる。
- (4) 諸検査介助などのエスコートを行うことができる。
- (5) 体験をとおして、医療および福祉・介護について自ら意見を述べるができる。

G1: 2016.5.10-11

MB6-0203 緒方 寛・MB6-0461 新里康太・MB6-0071 石川洋平・
MB6-0253 神谷理菜

G2: 2016.5.12-13

MB6-1025 依藤博士・MB6-0904 丸山貴大・MB6-1037 和田主泰・
MB6-0980 山口智広

実習場所：公立穴水総合病院・能登北部地域医療研

早期福祉体験実習を振り返って

(G1: 2016.5.10~11)

MB6-0203 緒方 寛・MB6-0461 新里康太・MB6-0071 石川洋平・
MB6-0253 神谷理菜



■MB6-0203 緒方 寛

今回このような貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。穴水に来て色々なことに気づかされたと思います。まず、認知症高齢者の食事の介助は意思の疎通が難しく、とても大変でした。将来医師になった時もこのような場面があると思うので、しっかりと考えていこうと思いました。また、在宅医療もとても厳しい現状を実感し、これから高齢化する日本で、多くの地域が同じようにやっていくということの大変さを感じました。また、特に印象に残っているのが二日目の最後のリビングウィルに関する討論で、人の医師である以上いつでも変わる可能性があるというのを聞いて、今までの自分の認識の甘さ気づかされました。自分は将来、眼科の医師になりたいので、高齢者を相手にすることも多々あると思いま

す。今回の経験を活かしていきたいです。

■MB6-0461 新里康太

今回の実習は、一日目は穴水総合病院に併設されている高齢者施設の、あゆみの里にて食事介助などを行った。スプーン一杯にどのくらいの量のごはんを乗せれば良いかを考えながら高齢者に与えた。また、「美味しいですか？」などと声かけをしながら食事を与えるということも大事だと思った。その後に行った訪問診療は私にとって新鮮なものだった。患者さんのお宅で医師が診療を行っているところを初めて見る事ができて興味深かった。特に、二軒目に伺った家では患者さんの気管のところのところに穴が開けられてそこに埋め込まれている器具を交換するという作業を目にしたが、医師と看護師との連携がスムーズに行われ、医療技術はこういったところで発揮されるのだなと実感した。二日目は甲診療所に行って、医師が診療を行っているところを見学した。その医師は患者さんと上手くコミュニケーションをして、今から注射を打たれる患者さんの気持ちを楽にしていたように思えた。病院に戻ると、病院内の施設を案内してもらった。特に印象的だったのが、救急治療室である。そこには、医療ドラマでも見る電気ショックの機械や、電照台があった。普段、一般の人たちが立ち入ることのできない場所なので、もっと他の機械についても知りたいなと思った。今回の実習は、普段私たちが頭でしか考えられない医療福祉を体で感じる事ができたという点で有意義だったと思う。頭で考えるのと、実際に医療福祉を体験することは、とても大きく違うことだと感じた。この体験をもとに、今の自分、あるいはこれからの自分に何が必要不可欠なのかを考えながら勉強を続けていきたい。

■MB6-0071 石川洋平

今回は公立穴水総合病院で医療福祉体験実習をさせていただき、ありがとうございました。2日間という短い時間でしたが、とても貴重な体験をすることができ、医師になりたいという思いがよりいっそう強くなりました。1日目は、まず午前中に、関連施設のあゆみの里で、入居者の方とのコミュニケーションや、食事補助を経験させていただきました。入居者の方とのコミュニケーションをとる中で、特に印象に残っているのは、認知症の方との会話のやり取りです。同じ会話を何回もしてきたり、何て言っているのか分からなかったり、こういう時はどう対応すればいいのだろうと思うことがいくつかありました。しかし、昔どんな職業をしていたのかなど、しっかりと覚えていることもあって、そういった話を聞いたり話したりするのはとても楽しかったです。また、食事補助をするのは今回が初めてだったのですが、どれくらいのペースで食べさせてあげればいいのか、どういった順序で食べさせてあげたらいいのかなど、実際に経験してみると細かな難しい点があることに気付くことができ、とても良い経験になりました。また、今回経験することはできなかったのですが、ずっと叫んでいる方とはどのようにコミュニケーションをとればいいのか、や、入浴補助など、今後、実際に経験してみたいことが増えました。午後からは、先生の訪問診療に同行させていただきました。話すことができない患者と先生とのやり取りや、介護をしている親族の方と先生の情報のやり取りを見て、このように訪問診療は行われているのだなと実感することができました。また、介護をしている人も高齢であり、力仕事は難しく、ずっと介護をすることで気疲れしてしまうなど、肉体的にも精神的にも負担が大きく、問題点が多々あるのだなということを感じました。2日目は、兜診療所と近くにあるやぶこし商店に連れて行っていただきました。兜診療所では、患者は高齢者の方ばかりであり、ただの診療だけでなく、診療が終わった後も待合室で世間話をしており、それは実際にテレビで見たことがある風景でした。この待合室での患者との会話や、やぶこし商店に集まった方との会話を通して、僻地の高齢化の問題や、そこにあるたった一つの診療所の重要性を感じることができました。また、こういった田舎での診療では、都会にある大きな病院や診療所とは違って、コミュニケーションがより密に行われているということを感じることができ、本当にいい経験になりましたし、地域医療にとっても興味が湧きました。この2日間を通して感じたことは、介護にしても医療にしても、共通してコミュニケーションがとても重要であり、そのコミュニケーションの中で患者の負担を取り除くことや、患者が言いたいことをくみ取らなければいけないということです。また、地域医療がどのようなのかを実際に見ることができて、とてもいい経験になりました。この2日間では、技術的に何かが上達したとかいうわけではないかもしれませんが、今後6年間でこういったことに意識しながら学習していかなければいけないのかを考える良いきっかけとなったことは確かです。今回は貴重な経験を本当にありがとうございました。

■MB6-0253 神谷理菜

医療福祉体験でいかせてもらった公立穴水総合病院ではとても貴重な体験をさせていただきました。まずは訪問診療です。テレビで見たことはありましたが、実際に現場を体験したのは初めてでした。一軒目の患者さんのお宅に着いて、介護をなさっている家族の方が出てきてまず一言目に発した言葉が「先生が来てくれてよかった。」でした。そして目に涙をうっすらと浮かべていらっやいました。その光景を見たとき、中橋先生はこの地域にどんなに必要とされているかがひしひしと伝わってきました。診療中も介護をなさっている家族に患者さんの最近の状況を聞きながら、終始和やかな雰囲気、患者さんだけでなくその家族の方の不安を取り除いたり、負担をかけすぎないようにしているのがわかりました。二軒目のお宅でも、笑顔が絶えずあって、想像していた重苦しい雰囲気が全くなくて驚きました。実際に見ない

とわからないことを教えていただきました。次はおじいさんとおばあさんとのふれあいです。介護老人保養施設でコミュニケーションをとろうというときに、始めはなにをしていいかわからず、おじいさんおばあさんの側までいく間にだいぶ緊張しましたが、いざ話しかけてみると会話がはずんで、一緒に折り紙を折ったり、家族の話や穴水町のこと、人生のためになる話で盛り上がり、施設のかたに次の仕事の声をかけられるまでの時間があったという間でした。次にまかせてもらえた食事の介助をするときも、実際に体験してしかわからないことがたくさんありました。食べてもらいやすいスプーンの角度だったり、水分を何回かにわけて摂取してもらうことで病気の予防に繋がることも教えてもらいました。また、付属診療所の兜診療所でも、診察の様子を見学したり、待合スペースでの患者さんの方言での会話を聞いたりして、そういう、小さな町の、高齢化が進んでいる町の診療所の様子をみることができました。この様子が将来の日本の縮小図だと思うと、その様子や雰囲気を実体験できたことが未来の自分の姿をよりリアルに想像することにつながって、立派な医師になりたいという気持ちが引き締まりました。二日間という短い時間でしたが、貴重な体験をさせてもらえて、とても充実した日々をすごすことができました。お世話になった公立穴水総合病院の皆さん、ありがとうございました。

G2 実習期間：2016.5.12～13

MB6-1025 依藤博士・MB6-0904 丸山貴大・MB6-1037 和田主泰・
MB6-0980 山口智広



■MB6-0904 丸山貴大

1日目は併設のあゆみの里で主に、入浴の補助、食事の介護を行いました。入浴は脱がせることから、身体をふき、服を着せることまでしました。脱がせることも着せることも身体が硬直しているため、手間がかかりとても苦労しました。また入浴所が高齢者のために高温に設定されており、とても暑く、施設の方も汗だくで介護していることが印象に残っています。食事の介護も認知症の方とお話を合わせるが大変で、座学だけでは得られなかったことを実際に体験できて非常に有意義な時間でした。午後からは緊急外来で、頭部を切った患者さんの診察とその処置を見学しました。担当した方は研修医2年目の私たちの先輩でしたが、縫合などの処置も迅速で、感動しました。また、僻地での研修なので、ありとあらゆる病状を実際に診察し、日々勉強になっているそうです。2日目は在宅診療に同行しました。医師の方も看護師の方も患者さんとテレビのこと、稲刈りのことなど、日常の会話からコミュニケーションをとっていて、非常に和んだ空気で見学していました。やはりただ問診して終わりというだけでなくこういったコミュニケーションをとることで患者さんも安心して問診にに応じてくれるそうです。さらに、体調が良い時に体重を量っておき、体調が悪い時に体重を量ることである程度病状を予測することができることなど、大型の医療器具を持ち込めない在宅医療ならではの色々な知識も教えていただきました。高齢者率40%をこえる僻地で介護実習だけでなく、実際の医療現場まで見学させていただき、将来の指針になる大変有意義な2日間でした。貴重な経験を有難うございました。

■MB6-0980 山口 智広

今回の公立穴水総合病院での医療福祉体験実習では、高齢者に対する介護の重要性と地域医療・僻地医療に関わる総死の現状を学ぶことができました。私は将来、総合医となり地域医療に貢献できる医師になりたいと考えています。地域医療で重要なことは医師と医療従事者との連携であると考えていましたが、今回の実習で穴水町の地域医療への取り組みについての中橋先生のお話や、「やぶこし商店」に関する映像を見て、医師と医療従事者との連携だけでなく、住民や商店などの地域全体と医師との強いつながりも

非常に大切であると感じました。

あゆみの里では、入浴介助や食事介助などを通し、介護の大変さを知りました。入居者の中には身体が硬直してほとんど動かなくなっている方もおられて、入浴介助の大変さが身に染みしました。入浴のあと、髪を乾かす際に、手や足の裏まで一緒に乾かしていることを知り、細部までの心配りに感動しました。また、食事介助では入居者のペースに合わせて食事を口に運ぶことや、同じものばかりを食べさせるのではなく、色々なものを順番に食べさせる工夫が必要であると知りました。医学生の中に、医師以外の医療スタッフの仕事を経験できたことは、医療スタッフの気持ちが少しでもわかる医師になれるという点で、将来役に立つと考えます。

緊急外来や内視鏡室の見学では、実際の医療現場を目の当たりにすることができました。治療を行う際に、先生方が患者さんに優しく声をかけていらっしゃる姿が印象的でした。どれも初めて見ることや知ることが多く、大変勉強になりました。また、訪問診療や僻地医療の現場に同行して、地域医療を行う上ではその地域の文化や環境を知ることが第一であることを学びました。今回の実習では学校の座学だけでは学べないことを多く学び、今まで知らなかった世界を知り、自分の考えを見直す機会となり、大変有意義な二日間を過ごすことができたと思います。これからも初心を忘れず、日々、医学生としての自覚を持ち、自分の夢に向かって進んで行きたいと思います。公立穴水総合病院の皆様、本当にありがとうございました。

■MB6-1025 依藤博士

先週の医療福祉体験実習で公立総合穴水病院に行った。

1日目は、初めに介護老人保健施設の「あゆみの里」に行き、そこで初めて認知症の方の介助を行った。入浴介助や食事介助などかなり疲労がたまる仕事だったが、人に感謝される仕事だったのでとてもやり甲斐があった。介護士の大変さがわかってこれから役に立つと思った。とても貴重な体験だった。次に、救急外来に行き、患者2人の診察を見た。切傷で負傷していた患者の治療には驚くことばかりだった。看護師と医師が連携して治療する姿は格好よかった。夕方からはグループ全員で旅館にいき、夕飯は焼肉に行った。あまり喋ったことのない人とも仲良くなれたのでよかった。

2日目は、へき地に訪問診療に行き、へき地医療について多くのことを学んだ。自分は今まで無医地区という言葉も聞いたことがなかったですが、実際に足を運んでみると今まで見たことないほど田舎だったので驚嘆した。

この2日間は内容の濃い大切な時間だった。2日間ありがとうございました。

■MB6-1037 和田主泰

金沢医科大学医学部1年の和田主泰です。私は能登地域医療研究所で2日間、様々なことを学ばせていただきました。あゆみの里で高齢者の入浴介助のお手伝いをさせていただきました。お手伝いをさせていただいた介護士の方々には、忙しい中丁寧に私たちに仕事を教えてくださいまして、とても感謝しています。その後、食事介助もさせていただきました。食事介助では、高齢者の方々とのコミュニケーションがうまく取れず、四苦八苦していたところがありましたが、すべて食べていただけたのでホッとしていたことが心に残っています。穴水総合病院の地域医療に対する考え方や取り組みを中橋先生や、「やぶこし商店」のDVDから、地域のつながりの重要性も学びました。緊急外来があり、その現場に立ち会えることになったことは私にとって凄く大きな出来事になりました。治療を行うなかで、先生方が素早く相談しているのを見て、自分もこのようになるために勉強しなければならない。と私が目指している職業とはどんなものなのか再確認ができました。私はへき地医療とはどんなものなのか聞いた事はあっても、経験した事はなかったので、とても印象に残っています。公立穴水総合病院の皆さんにお忙しい中医学生にとって貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

